UNITED NATIONS **NATIONS UNIES**

国際連合事務総長--
国際生物多様性の日へのメッセージ
2009 年 5 月 22 日

持続可能な発展に関する世界首脳会議において、２０１０年までに生物多様性の減少速度を著しく減少させることが合意されました。しかしながら、世界的な生物多様性の危機は、依然として続いています。主な原因としては、森林減少、生息地変化、土地環境の悪化などが挙げられますが、これらは深刻化しつつある気候変動とも関係しています。そして、生物多様性におけるもう一つの脅威が、今年の国際生物多様性の日のテーマとなっている、外来種の拡散です。

外来種は、グローバル化のやっかいな副産物として、世界中の生態系サービス、人々の生活や経済に悪影響をもたらしています。例えば、南アフリカでは、アカシアが優良農地や河川システム、経済的に重要な観光地（Cape Floral Kingdom）に侵入しており、これらの植物の根絶のために、南アフリカ政府は毎年６０００万ドルの予算を投入しています。

また、北米の五大湖では、カワホトトギスとよばれる二枚貝が、船舶輸送、漁業、発電等に影響を与えています。太平洋の島々では、外国船によって運ばれたネズミが固有種の鳥を絶滅の淵に追いやっています。アフリカの多くの国では、ホテイアオイが湖沼や河川を塞ぎ、水生生物やそれらの恩恵を受けている地域社会と産業に悪影響を与えています。

外来種が地域固有の生物多様性、農林水産業、そして人間の健康にまで影響を与えている事例は枚挙にいとまがありません。さらに、こうした外来種による脅威は、生物多様性の減少に関する他の要因、特に気候変動によって、増幅します。そして、貧困削減、持続可能な発展、ミレニアム開発目標の達成に、深刻な影響を及ぼすであろうと示唆されています。

生物多様性条約では、外来種の脅威への対応として、世界的な優先事項やガイドラインの設定、情報や専門知識の共有、国際的取り組みの協調支援等を行っています。外来種の侵入防止が最も費用効果のよい実行可能な対策であり、対策実行のためには政府、企業、NGO、国際機関等の連携が必要です。各国において外来種の侵入を防止するためには、侵入の可能性がある種、想定される侵入経路、効果的な管理手法の知識を有していることが必要です。

市民一人一人にも責任があります。地元及び国際的な検疫・税関規制を遵守することにより、病害虫、雑草、疾病の拡散を防ぐことができます。非常に簡単なル

ールに従えばよいのです。生き物を本来の生息地にとどめ、旅先からは思い出だけを持ち帰ってください。

来年は国際生物多様性年です。焦点の一つは、国連総会のハイレベルセグメントと、日本の名古屋市で開催される生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）です。これらのイベントは、地球の生態系のための保全戦略を検討する機会となるでしょう。今日、外来種対策及び生物多様性を脅かすその他の要因への対応は、ますます緊急の課題となっています。すべての政府、機関、個人に対して、地球上のいのちを守るための取り組みを再確認するよう、要請します。